

発議第 5 号

戦後 80 年にあたり歴史の教訓に向き合い、平和な世界に向けた立場を
表明する談話を発することを求める意見書

上記の意見書を別紙のとおり提出します。

令和 7 年 6 月 6 日

提 出 者

八雲町議会議員 佐 藤 智 子

賛 成 者

八雲町議会議員 横 田 喜世志

八雲町議会議長 千 葉 隆 様

戦後 80 年にあたり歴史の教訓に向き合い、平和な世界に向けた
立場を表明する談話を発することを求める意見書

政府は戦後 50 年、60 年、70 年の節目に閣議決定を経た首相談話を発表してきた。50 年の村山談話では「植民地支配と侵略」について「痛切な反省」と「心からのおわび」を表明し、60 年の小泉談話でも基本的にその姿勢が踏襲された。70 年の安倍談話では「反省とおわび」などの言葉を使いながらも、「未来志向」を強調する内容となった。

戦後 80 周年を前に、昨年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞した。被爆者のみなさんが被爆の実相と核兵器の非人道性を語り広げてきたことが核兵器の使用をタブーとする世論を築いてきたことによるものである。

今、世界では軍事的な緊張の高まりがある一方で、A S E A N（東南アジア諸国連合）にみられる軍事的対立ではなく、包摂的な平和構想によって緊張を緩和する平和の潮流も生まれている。

戦後 80 周年の節目となる今年、国においては戦争の歴史の教訓に真摯に向き合い、再び戦争の惨禍が起こることのないように、包摂と対話による平和な世界へ貢献する意思を表明することを求める。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 7 年 6 月 6 日

北海道二海郡八雲町議会議長 千 葉 隆

【提出先】

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
外務大臣
防衛大臣